

(1) 丹那盆地モ断層の水平移動  
畠の畦が約1m右側は北に左側は南に動いてある。



(3) 軽井澤電神社鳥居  
この石燈籠は此の邊は震動甚だ猛烈だつただけである。が



(4) 柱の捻れと柱の折損状態とを示す。

## 伊豆地震のスナップ

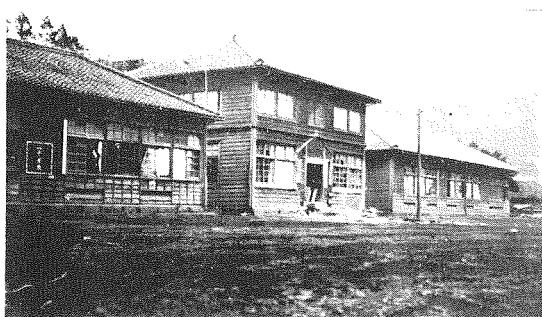
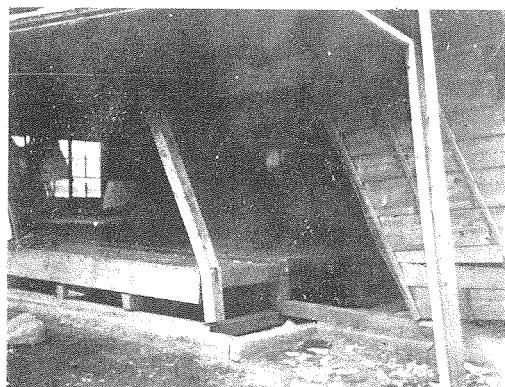
十一月二十六日、午前四時、曉夢を破つて突發した伊豆地震は復興の美酒に酔ふた一部市民には久し振りで好個の刺激であつた。

筆者は、直ちに、コースを熱海一丹那・両南村一三島沼津に取り、市街地の建築物を主として残骸の取片付と復興の計畫とにゴツタ返中を、視察に赴いた。以下その折のスナップから摘録して見る。序ながら、その感想を要約すると、

1 建築物の被害は極めて狭い範囲の局部性を持つ。即ち、地質、地形の變化から来る地動の局部性が、意外に著しい結果を來す。地動現象の発明は元より、更に地質地形との相關關係を明にする事が今後の緊要事であらう。

## 吉 茂 田 甲 午

2 土臺緊結、筋違使用 etc. と云ふ様な從來の耐震構造法のみでは物足らぬ。それは、何處までも、より安全なといふだけの重性論で重量的には不可知である上に、構造の實際手段に研究が足らぬ爲、耐震的に發揮する能率は頗る低い。偶然か、必然か、剛で助つたものも、柔で助つかるものも、又基礎からスリップして助つたものさへある。地動と併せて構造物そのものも個別の振動性に、更に一段の研究が望ましい所以である。



## (7) 丹那小學校舊校舍

新校舎と校齡三十年の差を有しながら、顯著な被害なし。然も極めて舊式な構造であるが、敷ブロックに分離して成功、主斷層から約5m。

## (8) 同左、新校舎

屋根は軽いが間仕切が少し、盛土上に在り殆んど半潰に近からんとしてある。

## (5) 上、丹那盆地略中央の消防組合

主斷層の東約一町、半潰程度。頭が南に即ち地動北に向ふ。

## (6) 下 同 上

柱住口から折損、斜材を有せぬラーメンの歪曲。



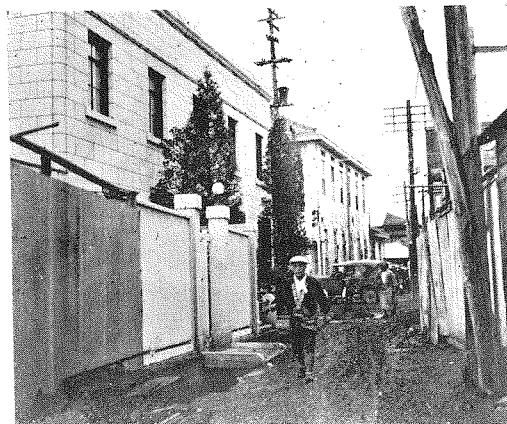
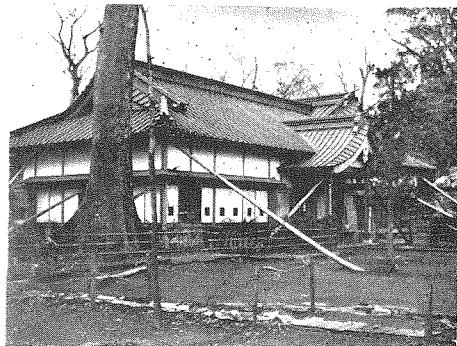


(9) 三島神社石燈籠

五基各様の倒れ方、急激な水平動か  
搖動 Rocking總てが廻轉 Rotationを  
伴ふ。

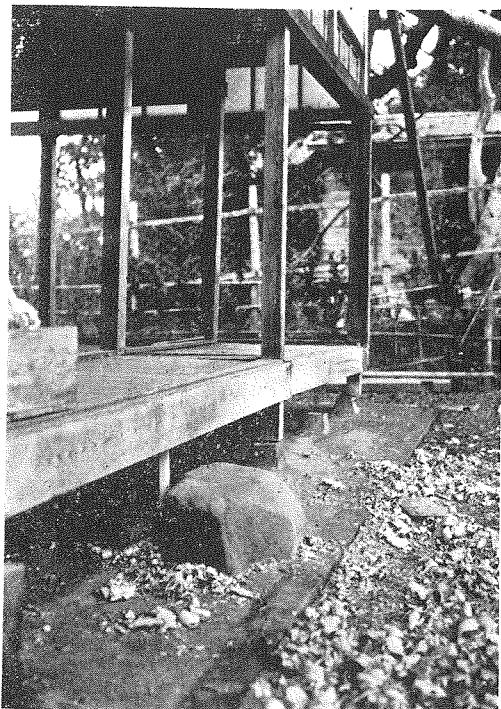
(10) 同社社務所

竣工後間もないも  
の、二柱、桐板  
葺、柱及間仕切多  
し、然も相當被害  
あり。此向側の鐵  
骨混凝土寶物庫  
(編者註26頁対  
参照)の無害なる  
と好一對。



(11) 三島郵便局と某銀行

奥は木造二階建の郵便局、下は廣間  
とて二階の腰で約 20cm 程轉出して  
居り、被害は致命的、手前は鐵筋混  
凝土二階建銀行、無害。



(12)

三島神社社  
務所

曲構材の著せぬ歪  
曲。側柱から移動が  
容易な有効性。